

第三章 紳士協約ノ協定ト其前後ニ於ケル交渉

第一節 紳士協約協定前ニ於ケル兩國ノ立場

第一、加州州會ニ於ケル日本人問題討議

一、「サンフォード」提出決議案

一九〇七年（明治四十年）三月學童問題前後ニ互リ加州ノ一般排斥運動益々熾ニシテ殊ニ同州會ニ於テハ幾多ノ排日法案提出セラレタリ右ハ學童問題前後ニ於ケル加州ノ政情ヲ反映シ且其後結局所謂紳士協約ノ締結ヲ促スニ到リシ當時ノ同方面ノ空氣ヲ表示スルモノトシテ相當注目スヘキモノナリト認メラル一九〇七年一月七日第三十七回加州州會首府「サクラメント」ニ於テ開催セラレ當時恰モ學童問題其他排日事件ノ世上ニ喧シカリシコトトテ同州會ニモ排日的諸議案ノ提出ヲ見ルヘキハ豫測セラレタル所ナリシカ果シテ日本人ニ不利益ナル數個議案出現セリ當時加州ニ於ケル各政黨政派ハ多數勞働者ノ歡心ヲ買ヒ以テ其政治上ノ勢力ニ資センカ爲悉ク日韓人排斥ヲ其政綱中ニ加フルノミナラス民主黨ハ今回ノ排日問題ニ對スル大統領ノ態度ヲ見テ加州ニ於ケル

共和黨ヲ攪亂スル好個ノ手段ハ此際各種ノ排日法案ヲ州會ニ提出シ併セテ大統領ヲ攻撃シ共和黨ヲ窮境ニ立タシムルニアリトシ一月十四日民主黨議員「サンフォード」(Sanford)ハ率先シテ大統領ノ學童問題ニ干涉スルハ違憲ノ行爲ナルコト日本人ニ歸化ヲ許スノ不當ナルコト竝ニ「メトカフ」長官ノ排日問題ニ關スル報告ノ牽強附會ナルコト等ノ諸項ヲ包含スル一決議案ヲ上院ニ提出シタリ

二、「コミネッティ」及「ジョンソン」提出ノ決議案

尋テ一月十七日學童問題ニ關スル訴訟ノ提起セラルルヤ翌十八日ハ民主黨議員「コミネッティ」(Cominetti)ナルモノ加州檢事總長ヲシテ右訴訟ニ關與シ州權擁護ノ爲必要ナル諸般ノ措置ヲ取ラシムヘキ旨ノ決議案ヲ上院ニ提出シ中央政府カ學童問題ニ關シテ提起セル訴訟ハ加州ノ州權及市民ノ利益ヲ危殆ナラシムルモノトナシ學務行政ハ全然州ノ自治權ニ屬シ他ノ容喙ヲ許スヘカラサルモノナル旨ヲ述ヘタリ然ルニ前顯兩案共大統領並ニ「メトカフ」長官等ヲ非難攻撃スルノ文字ヲ包含スルヨリ共和黨ハ黨路上之ヲ避ケントシテ司法部委員ニ附託シ右兩案ヲ審査セシムルコトトセリ共和黨院內總理「ウォルフ」(Wolf)自ラ其委員長トナリ協議考慮ノ中ニ時日ヲ費スト同時ニ一方下院ニ於テハ共和黨ハ民主黨ニ先ンシテ「ジョンソン」(G. L. Johnson)ヨリ「今回ノ訴訟ハ

直接桑港學務局ニ關係セリト雖モ實ハ加州州權ニ重大ナル影響ヲ及ボス事件ナルヲ以テ須ク州檢事總長ニ命シテ右訴訟ニ關與シ法廷ニ於テ桑港學務當局ヲ辯護セシムヘキ」旨ノ決議案ヲ提出シ自身共和黨ニ屬スルニモ拘ラス大統領今回ノ行動ヲ攻撃シ過激ナル演說ヲ爲シテ州權擁護ノ必要ヲ説キタルニ同案ハ大多數ヲ以テ一月二十三日下院ヲ通過シ直チニ上院ニ回付セラレタリ

三、「キーン」提出ノ學務令修正案

上院ニ於テモ一月二十一日桑港選出ノ「キーン」(Keane)ヨリ加州學務令修正案ノ提出セラルルアリ同案ハ學童事件訴訟ニ於テ桑港學務局辯護ノ任ニ當レル市檢事「バーク」(Burke)ノ起草ニ係ルモノト傳ヘラレ隔離學校ニ送ルヘキ兒童ノ中ニ明カニ印度人、支那人、馬來人、朝鮮人、日本人及凡テノ「モンゴリア」兒童ヲ入レタリ

四、「ドリュ」提出ノ土地法案

一月二十三日ニハ下院議員「ドリュ」(Drew)ヨリ歸化權ヲ有セサル外國人ノ加州内ニ於ケル土地所有權ヲ五ケ年ニ借地權ヲ一年ニ制限スルノ法案ヲ下院ニ提出シタルカ其主トシテ日本人ヲ目的トシタルハ云フ迄モナキ所ナリ

五、「キーン」提出ノ歸化反對決議案

一月二十四日ニ至リ上院議員「キーン」ハ日本人ノ歸化反對ニ關スル決議案ヲ上院ニ提出シ大統領領カ其敎書ニ於テ日本人ニ歸化權ヲ與フル法律ノ制定ヲ合衆國議會ニ求メタルハ加州竝ニ一般合衆國市民ノ福利ト相容レサルヲ以テ州會ハ斯ル立法ニ反對スヘキ様充分努力セシムルノ必要ヲ唱ヘ以上諸議案ハ皆夫々委員ニ附託セラレテ調査ニ附セラレタリ

六、「リンゼイ」ノ排日綏和運動

在桑港上野領事ハ豫メ今日アルヲ慮リ議員間ノ消息及議案ノ内容等前以テ探知シ置キ若シ出來得ヘクンハ右防遏運動ヲモ試ムルノ必要ヲ認メ幸ヒ同地日本人協議會顧問辯護士「リンゼイ」(L. E. Gray)カ共和黨中ノ有力家ニシテ兩院議員中ニ多數ノ友人ヲ有スルノミナラス上院議長、院内總理其他ト政治上ノ關係ヨリ親交アルニヨリ右運動上各種ノ便宜ヲ有スルニ付同協議會ヲシテ州會開會當時ヨリ右「リンゼイ」ヲ「サクラメント」府ニ出張セシメ置タルニ同人ハ爾來院內有力者ニ就キ夫々運動ヲ試ミ其效果見ルヘキモノアリ現ニ上院ニ於ケル共和黨院內總理「ウオルフ」ノ如キ從來排日派ノ驍將トシテ知ラレタルニ拘ラス「リンゼイ」ノ勸誘ニ應シ同期州會中自ラ進ンテ排日行爲ヲ敢テスルコトナカルヘキ旨ヲ言明シ上院議長モ「リンゼイ」ノ運動ニ對シ多大ノ同

情ヲ寄セ其目的ノ爲充分便宜ヲ與フヘキ旨ヲ約シタリト雖モ一方ニハ當時排日氣運頗ル強大ニシテ到底之ヲ防遏スルコト難ク前顯ノ如ク上院ニ於ケル共和黨ハ「ウオルフ」總理ヲ委員長トシテ上記「サンフォード」「コミネッティ」等ノ提出ニ係ル議案ヲ審査シツツ其間時日ヲ費スト同時ニ州知事ト打合セテ民主黨ヲ出拔カン爲知事ヨリ州檢事總長ニ命ヲ下シ今回ノ訴訟ニ關與セシメタル旨ヲ公言セシメ或ハ該訴訟ノ辯護費用ヲ州ヨリ支出スヘキ臨時豫算案ヲ共和黨ヨリ提出スヘキ旨ヲ言觸ラス等ノ苦肉策ヲ施シ以テ一般人氣ニ迎合シ併セテ民主黨ニ應戰スルノ策ヲ講シタリ

七、排日的諸案阻止ノ爲ノ「ルーズヴェルト」大統領ノ斡旋

然レトモ共和黨モ遂ニ一般ノ排日氣運ニ壓セラルルニ到リ一月二十九日前顯二個ノ民主黨案ニ代ヘ委員會ノ別案ヲ上院ニ提出シタルニ民主黨議員ノ熱心ナル反對アリタルニ拘ラス同案ハ大多數ヲ以テ上院ヲ通過シ直ニ下院ニ回付セラレタリ同案ノ要旨ハ合衆國政府カ學童問題ニ干涉スルヲ以テ加州ノ獨立權ヲ侵害スル違憲ノ行爲トシテ之ニ抗議反對シ併セテ州知事及檢事總長ニ對シ州權擁護ノ爲必要ナル各種ノ行爲ニ出テンコトヲ求メ且知事竝ニ檢事總長カ既ニ採リタル行動ヲ是認スルニアリ同案中合衆國政府ト云ヒ大統領ト云ハサル等民主黨案ヨリモ多少文句ノ緩和セルハ

勿論ナリト雖モ共和黨ヨリ右ノ如キ議案ノ提出セラルルニ到リテハ形勢容易ナラスト看取セルモノカ大統領「ルーズヴェルト」ハ翌三十日華府ニ在ル加州選出兩院議員ヲ招キ懇談ヲ遂ケタル結果同議員ヨリ桑港學務當局者ニ宛テ大統領ト商議ノ爲其出京ヲ促スノ電報ヲ發スルト同時ニ加州知事ニ向ケ日本人ニ關スル各般ノ立法行爲ヲ暫ク見合ス様州會ニ提言セラレ度旨電報シ知事ハ右ノ電請ニ接スルヤ翌三十一日之ヲ州會ニ告クルト同時ニ一篇ノ敎書ヲ發シ刻下ノ事情ヲ説明シ日本人ニ係ル諸問題ニ關スル立法ヲ當分見合サンコトヲ勸メタルニ州會ハ直ニ其議ヲ容レ大統領竝ニ加州代議士ノ請ニ應スヘキコトヲ決議シ同日ノ議事日程中ヨリ日本人歸化反對案ヲ取除キタリ

八、日本勞働者排斥條約締結ニ關スル決議案ノ提出

斯ノ如ク加州州會カ日本人問題ニ關シ讓歩ヲ爲スヘキ虞アリト見ルヤ加州ノ排日派ハ當局者ヲシテ飽ク迄モ強硬ナル態度ヲ取ラシメントシテ屢々會合ヲ催シタル外議員ヲシテ「學務當局カ此際學童問題ニ關シテ何等カノ讓歩ヲ爲スコトハ加州ノ名譽竝ニ威嚴ヲ損スルモノナレハ學務局ハ何者ヲモ恐ルルナク勇往邁進スヘキ」旨ノ決議案ヲ下院ニ提出セントシタルニ議長ハ前顯三十一日ノ決議ニ基キ直チニ其提出ヲ差止メタリ然レトモ上院ニアリテハ排日派ノ喧囂ニ制セラレ二月六日ノ會議ニ於テ前顯學務令修正案ニ關シ委員會ノ報告アリタルノミナラス突然議員「ブラック」ヨ

リ大統領及合衆國上院ニ對シ日本勞働者排斥條約ヲ締結センコトヲ要求スルノ決議案ヲ提出シ委員附託トナレリ同案ハ從來提出セラレタル排日諸法案中最モ廣汎ナルモノニシテ其前文ニ於テ

(イ) 日本勞働者渡來ノ危險ナルコト (ロ) 日本人ノ米國人ニ同化シ難ク其相婚スルノ不可ナルコト

(ハ) 日米間移民問題ハ其通商貿易ヨリモ更ニ重大ナルコト (ニ) 東西洋文明ノ共存シ難キコト (ホ) 日本人ニ歸化ヲ許スハ合衆國建國ノ精神ト相容レサルコト等日本移民排斥ノ必要ナル所以ヲ述ヘ日本官憲ノ力ニ依リ其勞働者ノ渡來ヲ妨止スルハ毫モ實效ナキヲ以テ此際合衆國政府ハ日本政府ニ對シ其勞働者カ合衆國ニ上陸ノ際合衆國官憲ノ力ニ依リ之ヲ排斥スヘキ旨ノ條項ヲ包含スル條約ヲ締結センコトヲ大統領竝ニ合衆國上院ニ要請シ併セテ右條約ハ日本勞働者排斥ニ關スル合衆國法律及教育婚姻參政權等ニ關スル加州法律ヲ何等相妨クルコトナカルヘキ旨ヲ附加セリ當時市長竝ニ學務局員ハ大統領ノ招請ニ應シテ東上シ華府ニ於テ商議中ナリシ爲州會ハ兩院共一月三十一日ノ決議ニ基キ日本人問題ニ關シ沈靜ノ態度ヲ取リタリ

九、學童問題解決後ノ情勢

二月十八日日本移民ノ轉航渡來ヲ禁止スル效果ヲ生スヘキ條項ヲ包含スル一九〇七年移民法ハ合衆國議會ヲ通過シ同日ヲ以テ學務局ハ華府ニ於テ市長ノ名ヲ以テ或條件ノ下ニ公立小學校ヲ日本

人兒童ニ開放スルノ協定成リタル旨ノ宣言書ヲ公表シタリ（第二章第二節第二項參照）

加州ニ於ケル排日派ハ右學務局ノ措置ヲ以テ不名譽ナル讓歩トナシ反對熾マス復々州會ニ對スル運動ヲ極力試ミタル結果共和黨議員カ日本人問題ニ對シ努メテ慎重ナル態度ヲ取ラントスル傾キアルニ拘ラス遂ニ二月二十七日上院議員「キーン」ヨリ日本人排斥問題ヲ次期即チ一九〇八年十一月總選舉ノ際州民一般ノ投票ニ附スルノ法案ヲ提出スルアリ翌二十八日ノ下院ハ前顯外國人土地所有制限法案ヲ通過シテ之ヲ上院ニ回付スルアリ其外上院ニ於テモ翌三月一日ニハ民主黨議員ノ日本人關係諸法案ヲ速ニ委員ヨリ議場ニ報告センコトヲ迫ルノ演說ヲ試ミ日本人ノ歸化ニ反對スヘキコトヲ主張シタルモ共和黨ハ大統領ノ勸告ニ基キ一月三十一日ノ決議ヲ爲シタル以來日本人ニ關スル諸法案ニ對シ頗ル慎重ナル態度ヲ取り遂ニ同黨議員間ニハ最早當會期中排日の立法ヲ討議セサルヘキ旨ノ內約若クハ默契ノ存スルニアラスヤトノ風說ヲサヘ生スルニ到リ共和黨院內總理「ウオルフ」ハ勿論同黨排日派議員ノ巨魁タル「キーン」スラ目下排日問題ヲ議スルノ時機ニ適セサルヲ唱ヘ加之同日民主黨議員「コミネッティ」ノ提出シタル日本學童隔離問題ヲ關係地域（桑港）一般ノ市民ノ投票ニ附スヘキ旨ノ法案ニ對シテハ議員「ミラー」（Miller）等大ニ之ニ反對シ目下此種ノ法案ヲ討議スルハ日米ノ國交上ニ悲シムヘキ影響ヲ及ホスヘキ旨ヲ主張シタ

ル結果同案ハ遂ニ其討議ヲ後日ニ讓ルコトナレリ尤モ共和黨ト雖モ全ク日本人問題ヲ葬ムル能ハスシテ「ウオルフ」總理ノ動議ニ基キ日本人關係諸議案ヲ同月五日ノ會議ニ上スヘキ旨ヲ決議シ同日ノ議場ニ於テハ下院ヨリ回付セラレタル外國人土地所有權法案モ討議セラレントスルノ模様アリタルニ依リ上野領事ハ日本人協議會理事安孫子久太郎ヲ促シテ州會開會地ニ急行セシメ且辯護士「リンゼイ」ニ旨ヲ含メテ排日諸法案ノ通過防止ノ爲極力反對運動ヲ爲サシメタルノ外「メソヂスト」教會日本人監督「ジョンソン」博士ニモ依頼シテ有力ナル議員間ニ出來得ル限りノ運動ヲ試ミタルノ結果上院議長其他二三有力ナル議員等ヨリ日本人關係ノ諸議案ヲ成ルヘク調査委員ノ手ニ於テ握潰ス様盡力スヘク假令其議場ニ現レタル場合ニ於テモ出來得ル限り其通過ヲ妨クル方法ニ出ツヘキ旨ノ內諾ヲ得タル趣ナリシカ果シテ同五日ノ上院議場ニハ何等排日議案ノ現ハルルナカリシト雖モ同月七日ニ至リ上院ハ再ヒ日本人問題ヲ討議スルコトトナリ議員「コミネッティ」ハ之ヨリ先同月一日自身ノ提出シタル東洋人隔離教育問題ヲ次期總選舉ノ際關係地域市民一般ノ投票ニ問フヘキ旨ノ議案ヲ討議センコトヲ議場ニ迫リ市長並ニ學務局員カ學童問題ニ關スル讓歩ハ大統領ノ威喝ニ恐レ越權ノ行爲ニ出テタルモノニシテ學童問題即チ兒童教育方法ノ如何ヲ決スルハ桑港市民自身ナルヘキ旨ヲ主張スルヤ共和黨院內總理ハ反對演說ヲ試ミ自身桑港選出

ノ議員ナルヲ以テ同市市民ノ意嚮ヲ最モ良ク解スル旨ヲ語リ桑港市民ハ敢テ東洋人隔離學校ヲ廢セント欲スルモノニアラスト雖モ「コミネッティ」案ノ如キハ其背後ニ潛メル黨派政略ノ爲ノ外何等ノ實效ナカルヘキ旨ヲ論シ同案ノ否決ヲ議場ニ促シタル結果同案ハ十九票ニ對スル十三票ノ少數ヲ以テ敗レタリ一方ニハ排日派ヨリ差遣シタル運動委員カ排日諸案ヲ通過セシメン爲議員ニ對シ殆ト脅迫的ニ必死ノ運動ヲ試ミタルヲ以テ共和黨總理「ウオルフ」モ遂ニ自己ノ提出ニ係ル加州學務令改正案ヲ同夜ノ討議ニ付スル旨ヲ宣言シ同夜議員ハ之ニ關シ約三時間ニ亙ル議論ヲ戰ハシタリ抑モ同改正案ハ學童隔離條項中ニ明カニ日本兒童ナル文字ヲ加ヘ併セテ一般兒童最初ノ入學年齡ヲ十歳ニ制限スルノ法案ニシテ若シ同案通過ノ曉ニハ學童問題ヲ再燃セシムルモノナルヲ以テ在桑港領事館ヨリ派遣セル運動委員等ハ其通過ヲ妨クル爲極力運動ヲ試ミ併セテ同夜ノ議事日程ニ上リシ下院ヨリ回付中ノ外國人土地所有制限法案ニ對シテモ必死ノ反對運動ヲ試ミタル結果同法案ハ前記學務令改正案討議ノ混雜ニ紛レ院內總理ヨリ調査委員ノ手ニ再附託トナシ之ヲ其手ニ握潰スノ策ヲ講セシメタルカ其際日韓人排斥同盟會派遣員ノ運動モ亦猛烈ヲ極メ前顯學務令改正案ノ討議ニ於テモ何人モ隔離學童中ニ日本兒童ヲ加フヘキヤ否ヤノ點ニ關シテハ議論ヲ挾ムモノナク唯學童年齡制限ノ點ニ付討議ニ時間ヲ移スニ止リシカ同夜ハ時既ニ深更ニ近シトノ理由

ノ下ニ兎モ角其採決ヲ翌八日ノ議場ニ讓ルコトトナシタリ

斯テ州會閉會モ後數日トナリタルカ當時院內ノ形勢ハ殆ト排日法案ニ關シテ何等確然タル運命ヲ豫見シ難キモノアリシ處三月八日改正案竝ニ「キーン」ノ提出ニ係ル日本人排斥問題ヲ次期總選舉ノ際加州州民ノ投票ニ付スルノ法案ヲ通過シ翌九日ニハ曩ニ一月二十四日「キーン」ヨリノ提出ニ係ル日本人歸化反對案ニ代フルノ委員會別案タル日本移民竝ニ日本人ノ歸化ニ反對スルノ決議案ヲ通過シ右三議案ハ直チニ下院ニ回付セラレ形勢逼迫セルヲ見テ遂ニ翌十日再ヒ大統領ハ加州知事ニ對シ電報ヲ以テ州會現下ノ行動ハ日本トノ合意ニ依リ其勞働者排斥ノ目的ヲ達セントスルニ障礙タルノミナラス今回合衆國議會ヲ通過シタル一九〇七年移民法ノ實行ヲモ阻害スル結果ヲ招クノ虞アルニ依リ日本人排斥ノ立法ヲ見合ス様盡力センコトヲ要請シタリ依テ知事ハ翌十一日下院ニ對シ教書ヲ發シ當時下院ヨリ回付中ノ諸排日議案ノ討議ニ關シ考慮ヲ求メタルニ曩ニ排日演說ヲ試ミタル議員中ノ有力家「ジョンソン」(Grove Johnson)自ラ率先シテ大統領ノ要求ニ應シ日本人關係ノ諸議案ニ對シ今後何等ノ行動ヲ取ラサル旨ノ動議ヲ提出シ右動議ハ直チニ大多數ヲ以テ成立シ當時下院ノ机上ニアリシ排日法案ハ其議事日程ヨリ取除カレ斯シテ同期ノ州會ハ一ノ排日の議案ヲ通過スルコトナク三月十二日ヲ以テ閉會ヲ告ケタリ

第二、石井通商局長ノ渡米ト米國陸軍長官「タフト」ノ來朝

一、石井通商局長ノ渡米

一九〇七年（明治四十年）七月帝國政府ハ移民事業調査ノ爲石井通商局長ヲ米國及加奈陀ニ派遣シ同地方ノ實情ヲ調査報告セシムルコトナリ同局長ハ七月二十九日日本丸ニテ出發渡米セリ然ルニ布哇ニ於テ偶然米國商務長官「ストラウス」ト會見シ同地滞在中竝ニ同地ヨリ桑港ヘノ航海中絶エス同長官ト移民問題ニ關シ意見ノ交換ヲ行ヘリ殊ニ左ニ掲クル布哇ニ於ケル會見ニ於テハ歸化權其他對米移民問題ニ關スル重要問題ニ付意見ノ交換ヲ行フコトヲ得之ニ依リテ米國官邊ノ移民問題ニ關スル眞卒ナル意見ヲ窺知スルコトヲ得タリ

二、石井局長ト「ストラウス」長官ノ第一回會見

八月五日布哇知事「カーター」ハ商務長官「ストラウス」ノ希望ニ依リ同長官ト石井局長及在「ホノルル」齊藤總領事トノ間ニ懇談ノ機會ヲ與フル爲午後七時ヨリ特ニ自宅ニ於テ主客四人ノ極メテ打融ケタル晚餐會ヲ催シ彼我懇談ノ機會ヲ作レリ
右晚餐會ニ於テハ相當突込ミテ意見ノ交換ヲ行ヒタルモノナレハ右會談要領ニ關スル石井局長ノ報告書ヲ可及の原文ノ儘之ヲ左ニ收録スヘシ

(一) 「ストラウス」長官―北米合衆國ノ制度ハ總テ善良ナリトハ稱スヘカラス其内ニハ宜シカラ

サルモノアリテ從來各國ヨリ非難ヲ受ケ困難ヲ醸シタルコト尠カラス然レトモ國體上變更シ得ヘカラサルモノハ假令他國ノ憤怒ヲ買フコトアルモ之ヲ繼續スル外途ナシ彼ノ移民法ノ如キ其一ナリ御承知ノ如ク我國ハ普通選舉ヲ行ヒ巨萬ノ富ヲ有スル者モ一錢ノ貯ナキ労働者モ投票上均一ノ權利ヲ有ス故ニ被選舉人ハ多數ヲ占ムル下層選舉者ノ意ヲ迎フルハ自然ノ勢ニシテ當選ヲ希フモノ此習慣ニ驅ラルルハ誠ニ止ムヲ得サルナリ蓋シ労働者ハ自己ノ立場ヨリ可成労働時間ヲ減シテ可成其賃銀ヲ高メントスルモノニシテ之ニ反對スル利害ヲ有スルモノヲ極力排斥ス之固ヨリ國家ノ爲宜シカラスト雖モ彼等ニ取リテハ無理ナラヌコト云フヘシ彼ノ桑港事件ノ如キ最モ困難ナル問題ナルモ前述ノ如キ事情ニテ致シ方ナシ

(二) 石井局長―閣下ノ觀察ニ依レハ排日運動ノ原因ハ奈邊ニ在リト思惟セラルルヤ其原因ニシテ若シ人種ノ問題ナラシメハ之ヲ協定スルハ至大ノ困難ニシテ殆ト妥協ノ不可能ナルヲ感スヘシ然レトモ苟モ人種の原因ニ胚胎セストセハ日米兩國當局者ノ協力ニ依リ何等落着セシムルノ途アルヘシ御高見如何

(三) 「ストラウス」長官―予ノ見ル所ニ依レハ右ハ人種のニアラスシテ經濟的ノモノナリト確信

ス其理由ハ若シ人種的ナレハ獨リ桑港ニノミ排日運動ノアルヘキ謂レナク到處之ヲ見ルヘキ筈ナルモ事實ハ之ニ反シテ桑港ニノミアリテ大西洋沿岸ニ絶エテ此事ナキヲ以テ知ルヘシ且又日露戦争ノ起ルヤ我國人ハ上下ノ別ナク露國ヲ排斥シテ貴國ニ熱心ナル同情ヲ寄セタリ元來米露兩國ハ從來一回モ國際紛議ヲ起セルコトナク極メテ親善ノ關係アリ且又露人ハ比較的日本人ヨリ我米人ニ縁近キ方ナルニ拘ラス斯ノ如ク擧ケテ貴國民ニ滿腔ノ同情ヲ表シタルハ貴我兩國民間ニ人種的嫌惡ノ念ナキ絶好ノ證據ト謂フヘシ

(四) 石井局長―貴國ニハ大西洋沿岸地方ニ對シ毎年百萬人以上ノ勞働者入國スルモ大西洋沿岸ノ經濟的ニ變動ヲ來ササルニ獨リ太平洋沿岸ニ於テ一年僅ニ一萬人内外ノ日本人入國スル爲米國勞働者ノ經濟上ノ狀態ニ變動ヲ與フヘシトハ頗ル解釋ニ苦シム所ナリ

(五) 「ストラウス」長官―近年ニ到リ日本勞働者ノ米國ニ入國スルモノハ一萬人内外ニ止ラス二萬ヲ超ユヘシト記憶ス而モ大西洋沿岸ニ於ケル入國數ニ比スレハ雲泥ノ差ナルモ抑モ我國ニハ二個ノ門戸アルヲ知ラサルヘカラス而シテ大西洋沿岸ニ面シタル門戸ハ充分之ヲ開放シテ何等危險ナル狀態ヲ起ス虞ナキヲ以テ若シ日本人ニシテ大西洋沿岸ヨリ入國スルナラハ決シテ歐洲人トノ間ニ寬嚴ノ區別ナキヲ斷言ス之ニ反シテ太平洋ニ面スル門戸ヲ一度開放スレハ入國者ノ

日本人タルト歐洲人タルトヲ問ハス非常ナル騷亂ヲ惹キ起スノ虞アリ故ニ東西其取扱ヲ異ニスルハ決シテ人種上ノ區別ニ基クモノニアラスシテ單ニ大西、太平洋其地ヲ異ニスルニ依ルコトヲ御推量アリタシ詳言スレハ大西洋沿岸ニ來ル如キ多數ノ外國人ヲ太平洋沿岸ニ迎ヘハ殺人強迫等ノ犯罪ヲ犯スモノ輩出シ修羅ノ巷ヲ演出スルハ明白ナルヲ以テナリ

(六) 石井局長―貴說ノ如ク多少其邊ノ事情モアルヘキモ日本人ハ地理上ノ理由ヨリ大西洋沿岸ノ門戸ヨリ入國スルコトハ不可能ニ屬ス又閣下ハ排日ノ原因ヲ經濟上ニ基クモノト言ハレタリ是蓋シ日本人ハ低廉ナル賃銀ニ満足スルモノナリトノ意味ナルヘキモ予ノ聞ク所ニテハ太平洋沿岸ニ於ケル日本勞働者ノ賃銀ハ伊太利人カ受クルモノヨリ低廉ナラスシテ寧ロ多クノ場合ニ於テ日本人ハ却テ伊國人ヨリ一日五仙乃至十仙ノ高給ヲ受ケ居レリト云フサレハ所謂經濟上ノ理由モ亦有力ナルモノト考フル能ハス

(七) 「ストラウス」長官―然リ斯ル場合モナキニアラス然レトモ太平洋沿岸ニハ伊國人極メテ少數ニシテ且伊國人カ米國人ニ嫌惡セラルルコトハ御聞及ヒナラン先年「ニュー・オルリンズ」ニ伊國人ノ「リンチ」問題ノ如キハ最モ其適例ナリ又予カ布哇ニ來ル前「シアトル」ヲ通過シタルトキ同地ニハ排日運動ナキモ既ニ百數十人ノ日本淫賣婦アルヲ發見セリ斯ノ如キハ道德ヲ紊

亂シ公ノ秩序ヲ破リ甚タ好マシカラサル現象ニシテ從ツテ其入國ニ對シテハ多少嚴重ナル取締ヲ設クルノ止ムヲ得サルモノアリ

- (八) 石井局長―淫賣問題ト一般労働問題トノ間ニ明確ナル區別ヲ爲スノ必要アリト信ス貴説ノ如ク淫賣婦ノ海外ニ渡航スルコトハ望マシカラサル爲帝國政府ハ既ニ極力之ヲ制止シツツアルモ如何セン彼等ハ百方術ヲ講シテ遂ニ貴國ニ入國シタルモノナラン此淫賣婦ニ對スル嚴重ナル取締ニ關シテハ帝國政府ハ何等ノ故障ヲ有セサルノミナラス貴國政府ト協力シテ適當ノ手段ヲ講スルヲ辭セサルヘシ現ニ上海及橫濱ニ於テモ貴國ノ淫賣婦ハ尠カラス見受ケラル又歐洲ニ於テモ倫敦、巴里ノ如キ大都會ニ於テ各國淫賣婦集合シテ白晝公行スルノ有様ナリ之等ニ對シテハ各國協同シテ一種ノ國際協約ヲ以テ共助取締法ヲ設ケントスルノ企アリト傳フ要スルニ淫賣婦取締ハ如何ニ嚴重ナリトモ帝國政府ハ何等ノ異議ヲ挾ムモノニアラスト雖モ若シ之ト混同シテ日本ノ一般労働者ニ對シテノミ特ニ苛酷ナル又ハ種別的ノ取締ヲ勵行スルトキハ日本國民タルモノノ不平怨嗟ノ聲ヲ發セサルヲ得サルナリ

- (九) 「カーター」知事―貴國政府ハ我國トノ間ニ相互労働者ノ入國ヲ禁止スルノ協約ヲ結フ意ナキヤ若シ右ノ協約成立セハ其事タル相互の利益ニ出テ將來移民ニ關スル難問題ノ發生ヲ免ルヘ

シ如何

- (十) 石井局長―凡ソ國際條約ナルモノハ互惠的ノモノタラサルヘカラサルハ言フ俟タサルニ貴國ニハ現ニ我人民ノ入國シ且場合ニ依リテハ労働ニ從事スルノ必要ヲ見ルモノ尠カラス然ルニ我國ニハ絶エテ貴國ノ労働者アルヲ見ス故ニ貴説ノ如キ其名ハ相互的協約ナルモ其實事ノ之ニ副ハサルヲ如何セン又假ニ帝國政府ニ於テ此ノ如キ協約ヲ結フコトアリトセンカ國民ノ輿望ニ背クハ勿論ニシテ何レノ内閣ト雖モ此輿望ニ反シテ國際協約ヲ締結スルハ困難ヲ感ス

三、石井局長ト「ストラウス」長官ノ第二回會見

八月七日齋藤總領事カ「ヤング・ホテル」ニ於テ「ストラウス」長官ニ晚餐ヲ饗シタル際同長官ト石井局長トノ會談ノ要領左ノ通

- (一) 「ストラウス」長官―本年二月米國大統領カ移民ニ關シ發布シタル行政命令ハ日本政府ヨリ之ニ對シ友誼的協力ヲ受クルニアラサレハ死文ニ屬スヘキハ勿論ナリ故ニ該命令ニシテ愈效果ヲ收ムル能ハサルニ到レハ合衆國政府ハ不本意乍ラ一層嚴格ナル處置ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ到ルヘキハ御賢察ヲ乞フ

- (二) 石井局長―米國ノ現行歸化法ハ予ノ考フル所ニテハ日本人ハ歸化スルコト能ハサルカ如ク見

ユ然ルニ東京駐在ノ貴國大使「ライト」ハ法文ノ解釋上日本人ノ歸化ハ差支ナキモノナリトノ
說ヲナセリ之聊カ不思議ニ思フ所ナリ此點ニ關スル御高見ヲ承リタシ

(三) 「ストラウス」長官―本件ハ頗ル疑問ニ屬スト思考ス日本人カ現行法ニ依リ米國ニ歸化スル
コト能ハサルヘシトハ勿論斷言出來難ク且本問題ハ本官ノ管掌ニ屬シ居リ現ニ本官ノ裁決ヲ待
ツモノ二三件アリタレトモ本件ハ何時モ之ヲ當分未決ノ狀態ニ殘シ置クヲ以テ良策トスルモノ
ナリ而シテ何故ニ疑問ナリヤト云フニ御承知ノ通り歸化ニ關スル法文中 Free white persons
or persons of African descent トアリ此 white ナル文字ハ如何ナル意義ヲ有スルカハ問題ナリ
之ヲ事實ニ照合スルニ抑モ該法文ハ南北戰爭カ僅カニ干戈ヲ收ムルヤ否ヤ黑人ヲシテ米國市民
權ヲ取得セシメ之ヲ公認スルノ目的ニ出テタルモノナリ故ニ此歴史的事實ニ鑑レハ white ナ
ル文字ハ black ナル文字ニ對スル意義ニテ其際立法者ノ意中ニハ獨リ黑白ニ關スル問題ノミ
アリテ其他ノ人種ニハ論及セサリシモノナリ之ニ依テ觀レハ本官ハ寧ロ獨リ日本人ノミナラス他
ノ黃色人種ニモ歸化ヲ許スヲ以テ或ハ正當ノ觀察ナリト思考スルモノ乍ラ今此問題ヲ大審院ニ
提起シタリト假定スルモ直チニ日本人ノ勝訴トナルヤ覺束ナシ何トナレハ大審院ノ判事ト雖
モ輿論ニ多少制肘セラルルハ人情ノ然ラシムル所ナレハナリ依テ此際本問題ヲ提起スルコトハ

本官ノ勸告シ能ハサル所リニシテ要ハ恰好ナル時機ノ到來ヲ待ツニアリト思考ス

(四) 石井局長―斯ル重要問題ニ關シ御高見ヲ聞クヲ得タルハ予ノ甚タ感謝スル所ナリ予ハ南北戰
爭後ト覺ユ貴國カ清國ト歸化條約ヲ結ビ相互歸化ヲ許スコトヲ規定シタルコトアリ此事實ニ徵
スルモ御高見ノ益々正鵠ヲ得タルモノト信ス兎ニ角御高見ハ深く記憶ニ銘セント欲ス

四、移民問題ニ關スル石井局長ノ進言

石井局長カ米國太平洋沿岸各州ヲ視察シタル結果九月十七日電報ヲ以テ林外務大臣ニ對シ「沿岸
地方ニ於ケル本邦人ノ農業經營豫想外ニ盛ニシテ而モ漸次健全ナル發達ヲナシツツアリ現ニ彼等
ノ有スル利益關係ハ業已ニ少クモ一千萬弗以上ニシテ前途甚タ有望ト見受ケラル要スルニ沿岸三
州ニ於ケル我邦人事業ハ苦力的ヨリ寧ロ實業的ノモノ多數ヲ占ムルニ到レリト見テ可ナリ就テハ
斯ル實業者ヲ概括シテ勞働者ト見做シ歸化權ト交換ニ其入國ヲ禁止スルハ折角勃興ヲ始メタル我
農業經營者ノ事業ヲ挫折スルノ虞アルノミナラス布哇及沿岸ニ於ケル我カ在留民ノ實況ニ徵スル
ニ歸化權ノ實益ヲ收メ得ヘキモノハ遺憾乍ラ極メテ少數ニ限ラルヘキカ故ニ過般商務長官「ス
トラウス」カ本官ニ内話セル歸化ト勞働者禁止トノ交換說モ其勞働者ヲ苦力ノ部類ニ限ルトセハ
格別若シ農業者迄モ包括スルモノトスレハ寧ロ現狀維持ヲ以テ得策ト思量スル」旨報告セリ依テ

帝國政府ハ今後ノ方針ニ關シ考究スル所アリタルカ結局移民制限條約ヲ締結スルモ其代價トシテ歸化權ノ享有ニ關シ日本人ニ完全ナル均等待遇ヲ與フルニアラサレハ帝國政府及國民ヲ満足セシムルニ足ラサルヘキヲ以テ若シ歸化權ノ獲得ニシテ望ナキニ於テハ寧ロ移民問題ニ關シ現狀維持ヲ得策ト認ムルニ到レルモノノ如シ

尙歸化權ノ獲得ハ其後ニ至リ其實現困難ナルコト益々明トナレリ即チ一九〇七年十二月二日在米青木大使大統領ニ面謁シ歸朝ノ挨拶ヲ爲シタル序ヲ以テ本件ニ言及シ帝國政府ニ於テハ固ヨリ自國臣民ノ他國ニ歸化センコトヲ欲スルモノニアラサルモ歐洲各國ノ臣民又ハ人民ハ米國ニ於テ歸化スルコトヲ許サルルニ拘ラス日本臣民ハ歸化スルコトヲ得ストスルハ即チ一種ノ差別待遇ニシテ帝國政府及國民ノ満足スルヲ得サル所ナリ就テハ然ルヘキ時機ニ於テ是非共此差別待遇ヲ排除スルコトニ盡力アラムコトヲ希望スト申述ヘタルニ大統領ハ自分ノ所見ハ一九〇六年ノ敎書ヲ發シタル時ト何等變ル所ナシ只不幸ニシテ爾來日本勞働者排斥論囂シク殊ニ今議會ニ於テハ加州選出議員ヲ始メトシテ太平洋沿岸諸州議員團結シテ日本勞働者排斥ノ議ヲ主張セムトスルノ勢ナルヲ以テ此際日本人ノ歸化問題ヲ提唱スルハ徒ニ不愉快ナル波瀾ヲ招クノミニシテ成功ノ見込ナシ而テ今後自分ノ執ラムトスル措置ハ出來得ル限リ排日議員ノ運動ヲ阻止スルニアルモノニシテ日

本政府ニ於テ充分嚴重ナル勞働者制限ヲ實行セラレ其結果日本勞働者渡來數減殺スルノ事實明ナルニ到ラハ右排日運動モ沈靜スルコトトナルヘク其曉ニ於テ適當ノ時機ヲ見テ該提案ノ實行ヲ期スルコトニ盡力スヘキニ付其邊ニ就テハ我誠意ノ存スル所ヲ了セラレタシト述ヘ國務長官モ大要大統領ト同趣旨ヲ開陳セリ

五、米國陸軍長官「タフト」來朝

一九〇七年九月二十八日米國陸軍長官「タフト」來朝シタルカ其際會合ノ機會ニ於テ林外務大臣ハ桑港學童問題其他一般移民問題等所謂日米問題ニ關シ「タフト」長官ニ對シ日米兩國ノ間ニ於ケル永年ノ親交ヲ持續シ益々兩國貿易關係ノ發展ヲ期スル爲移民問題ノ如キ案件ニ付テハ出來得ル限リ互讓ノ精神ヲ以テ事ニ當ルヘキハ勿論トスル所ナレトモ苟モ日本人ヲ歐米各國人ニ比シ劣等ナル待遇ノ下ニ置クカ如キ取極ハ何等ノ方法ニ依ルトモ甚シク國民ノ愛國の自負心ヲ損傷スヘキヲ以テ帝國政府ノ斷シテ應諾スルコト能ハサル所ナル旨ヲ述ヘ尙可成兩國國民感情ノ衝突ヲ防止スル爲現在ニ於ケルカ如ク互讓ノ精神ニ依リ行政上ノ取扱手加減ヲ以テ本邦人ノ米國渡航ニ對シ帝國政府自ラ相當ノ制限ヲ付スルコトハ差支ナキ旨ヲ附言シタルニ「タフト」長官ハ本問題ニ付テハ結局現狀維持ヲ以テ最良ノ方法ト思考スルノ意ヲ漏ラシ且米國ニ於テモ日本人ニ對シ可成

各國人ト對等ノ待遇ヲナスコトニ努ムヘキ旨ヲ開陳セリ

十一月一日西園寺總理大臣ハ後樂園ニ於ケル陸軍大臣主催「タフト」長官歡迎午餐會ノ際桑港問題及移民問題ニ付「タフト」長官ニ對シ帝國政府ハ最モ互讓のナル精神ヲ以テ事務局ヲ處理スルニ躊躇セサルヘシ然レトモ日本ハ他ノ列強ト絶對的對等ノ基礎ニ於ケル國民トシテノ其威嚴ト兩立セサル讓歩ヲ要スルカ如キ取極ニハ絶對ニ同意スルコト能ハサルヘキコトヲ明カニ了得セラレンコトヲ希望スル旨ヲ說述シタルニ「タフト」長官ハ之ニ對シ本問題ニ付テハ已ニ林伯爵ト意見ノ交換ヲ爲シ日本政府ノ意思ハ充分了得セル處ナル旨ヲ答ヘタリ

第二節 一般的日米協約締結問題

第一、一般的協約締結ニ關スル青木大使ト「ルーズヴェルト」

大統領トノ談合

一、日米關係ニ關スル青木大使ノ觀察

一九〇六年十月勃發シタル桑港學童問題以後約一ケ年ニ互ル日米兩國關係ニ關シ在米青木大使ハ大要次ノ如キ觀察ヲ下セリ

(一) 從來日米兩國ノ親善友好關係ヲ維持スルニ於テ何等困難ヲ感セザリシハ未タ其間ニ重大ナル利害ノ接觸又ハ衝突ナカリシニ依ル然ルニ米國ノ國際生活ニ一新紀元ヲ劃シタル米西戰爭ノ結果「フィリッピン」群島其所有ニ歸シタル以來茲ニ彼我利害ノ衝突ノ一因ヲ起シ又近クハ兩國間經濟通商關係著シク其重要性ヲ増加シ其間經濟的競爭漸ク激シカラントスルモノアルニ於テ彼我利害ノ分割益々顯然タルニ到レリ而テ此大勢ハ日露戰爭ニ依リ一頓挫ヲ來シタルノ觀アリシモ戰後日本ノ勢力増大シ四圍ヲ壓スルノ勢力アリタル爲日本ハ其聲明セル門戶開放機會均等主義ヲ確守セントスルノ誠意ヲ有セストノ論漸ク世界ニ傳ハリ米國內ニ於テモ之ヲ憂フル者アリタルニ際シ不幸ニシテ桑港學童問題其他ノ排日事件續發シ輕躁浮薄ナル黃色紙ハ盛ニ兩國民ノ間ニ疑惑ト敵愾ノ念ヲ挑發シタルヲ以テ米國ノ人心ハ茲ニ日米兩國關係ノ前途ヲ悲觀スルニ到リ夫ノ米國艦隊太平洋回航問題ニ對シ此ハ大統領ノ日本ニ對スル示威運動ナリトノ論盛ニ起リ特ニ最近米國海軍部内ノ一部ニ起レル米國ノ假想敵國ハ日本ナリトノ思想世間ニ傳ハルニ於テ米國輿論ハ益々日本ヨリ乖離セントスルノ傾向ヲ呈セリ

(二) 加之一九〇七年制定米國移民法第二條ノ規定ニ基ク大統領行政命令ノ公布ニヨリ日本移民問題ノ解決ニ一段落ヲ告ケタルニ拘ラス右行政命令ハ其庶幾シタル日本移民制限ノ目的ヲ達スル